


総合的な学習の時間・選択教科に役立つ

# 国際理解教育の手引き

平成15年度中学校教師海外研修に参加して

教室から世界へ  
世界から教室へ



JICA LIBRARY  
  
1192268 [9]



国内
J R

**JICA**  
ジャイカ

独立行政法人 国際協力機構



---

## はじめに

私共、独立行政法人国際協力機構（JICA）は、「よりよい明日を、世界の人々と」をスローガンに日本と開発途上国の人々をむすぶ架け橋として、互いの知識や経験を活かした協力をすすめ、平和で豊かな世界の実現をめざしております。

日本は、今でこそ世界有数の政府開発援助（ODA）の供与国となりましたが、第二次世界大戦後しばらくの間は最貧国のひとつであり、諸外国や国際機関等の支援により復興を果たし、その後高度成長を遂げるに至ったという歴史があります。そして、今日の日本の繁栄も開発途上国をはじめとする他の国々との相互依存の上に成り立っています。

JICAは、このような認識から、日本の市民の皆様に対して、開発途上国の実情と日本との関わりについて理解を促すことにより、開発途上国と皆様を結ぶ「架け橋」となるべく開発教育支援事業を実施しております。

この開発教育支援事業の一環として、私共は、授業を通して多数の生徒を教育する教師の役割を重視し、開発教育や国際理解教育に熱心に取り組んでおられる教師を対象として開発途上国への研修旅行を実施しております。この研修を通じ、開発途上国の置かれている現状と日本と開発途上国との関係への理解を深められた教師の皆様は、研修で持ち帰られたご経験をもとに、各学校現場において開発教育・国際理解教育の実践に日々取り組まれ、次代を担う生徒の教育に役立てておられます。

今般、平成15年8月に研修旅行に参加された教師の皆様の授業実践例を冊子として取りまとめました。この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方々の参考資料として、「総合的な学習」等の教育の現場での一助になれば幸いに存じます。

平成16年12月

独立行政法人国際協力機構  
国内事業部長 湊 芳郎



## はじめに

### 研修を生かした授業実践例

■われら地球市民 ～「共感的理解」を基礎とした国際理解教育を目指して～	松島 久美	4
■ぼくのアフリカ・わたしのアフリカ	岸 良宏	13
■ガーナへ行こう！	野澤 敬之	21
■開発途上国の現状を理解し、解決のためにできることを考える ～メディア（新聞）の報道をきっかけに取り組んだ成果をWEBで発信する～	末武 久人	34
■多様な文化と変容する東南アジア ～社会事象や資料を多面的に考察する力を育てるには、どのように指導したらよいか～	竹田 真人	43
■世界に目を向けて ～パネルディスカッションをしよう～	林 美千代	48
■Take actions! ～知り、考え、行動するための教育活動をめざして～	八木 三鶴	57
■南の国のフルーツから	増田 聖	67

### 参考資料

■事前研修		76
■東京研修日程		76
コース別日程／参加者氏名（ガーナ）		78
コース別日程／参加者氏名（ラオス）		81
コース別日程／参加者氏名（フィリピン）		84
■訪問国概要		87
■開発教育関係団体及び教材紹介		90
■JICAはこんなこともしています		96
■地域国際化協会一覧		97
■問い合わせ先		99



1192268 [9]

# 研修を生かした 授業実践例



東京 Chong

Japan Laos

ハルマ Philippines

# われら地球市民

～「共感的理解」を基礎とした国際理解教育を目指して～

松島久美 MATSUSHIMA KUMI

社会科  
山辺町立中学校（山形県）

実践教科 総合的な学習の時間  
時間数 6時間  
対象学年 2年生  
対象人数 1学級6名

## カリキュラム案

### 実践の目的

国際理解の授業は、これまでも社会科の授業や道徳・学活などでたびたび実践してきた。しかし、授業後の感想を見ると、「かわいそう」とか「大変だな」「早く悲惨な状況が無くなればいいな」という上滑りのものが多く、生徒の視野を広げたり、自分に何ができるかを考えさせるところまで掘り下げられていないのが現状であった。そこで、今回は実践するにあたり、次の2点に留意した。

1. 目指す生徒像とそのため的手段を明確にし、これまでの単発的取り組みから系統性ある取り組みにすること。
2. 現地研修で得た様々な資料や体験を有効に活用して授業を行い、生徒の視野を広げる。開発途上国の自立に

ついて地球市民としての視野から共感的に考えられるようにするとともに、自分に何ができるかを考えるきっかけとすること。

生徒達が様々な国の様子を主体的に学ぶと同時に、自国のあるべき姿や人間の真の豊かさにも目を向け、さらには、自分自身の生き方にまで目を向けることができれば素晴らしいと考えている。

**目指す生徒像：**開発途上国の自立について地球市民としての視野から共感的に考えるとともに自分に何ができるかを主体的に考えようとする生徒  
**手段：**ゲームや疑似体験を通してテーマと楽しく出会わせるとともに、感じたことや考えたことを共有しあって、視野を広げ、より高い価値に気づくことができるようにする。

### 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限</b> クイズ 「ガーナ DE ビンゴ」 ・ガーナの概要を知り学習に関心を持つ。	・ビンゴクイズに取り組みながらガーナの位置や気候、人々の生活などをおおまかに知る。	・ビンゴクイズ (資料1) ・写真・地球儀 ・実物教材 等
<b>2時限</b> 無人島ゲーム～Needs? or Wants? ・人間の生活に必要な不可欠なものとあった方がいいものを考える。	・無人島ゲームに取り組み、人間の生活を成り立たせるための必要不可欠な要素について考える。	・記入用カード ・学習プリント
<b>3時限</b> 教育はNeedsか? Wantsか? ・国づくりにおける教育の重要性を知る。	・非識字体験、日本の識字学級で字を覚えた人の詩、ガーナの成人識字学級の取り組み例などをもとに、国づくりにおける教育の重要性を理解する。 ・ビデオでガーナの教育、医療事情を知る。	・ゲーム用具 ・学習プリント ・ビデオ ・日本の識字学級で字を覚えた人の詩 (資料2) ・識字から生まれたセネガル農村女性の詩 (資料3)

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>課外</b> 教育と子供 ・インターネットで世界の教育の現状を調べる。	・インターネットでユニセフやJICAのホームページを調べ、教育を受けることができない子ども達の現状やその原因を知る。	・パソコン
<b>4時限</b> 違いについて考えよう ・あって良い違いとそうでない違いを分け、判断する基準を考える。	・ガーナと日本の違いを書いたカードを見て、あって良い違いとあってはならない違いに分け、そう考える根拠になったポイントを話し合う。	・違いカード (資料4)
<b>5時限</b> 貿易ゲーム ・富の不平等な分配を知り、開発途上国の立場を共感的に理解し、今後の課題を考える。	・貿易ゲームに取り組み、その後ゲームを振り返って、富の分配の格差について考える。 ・今後の課題について考える。	・貿易ゲーム用具 ・精算プリント ・振返りプリント
<b>6時限</b> 貧困の環を絶つ ・開発途上国の貧困の悪循環を絶つ方法を考え、国際協力について理解する。	・「貧困の環」を絶つ方法を話し合い、支援や自助努力の視点を理解する。 ・ガーナでの青年海外協力隊員やNGOなどについての話を聞き、国際協力の現場の思いを知る。 ・学習を振り返り、学びを確認する。	・学習プリント ・実物教材

## 授業の詳細

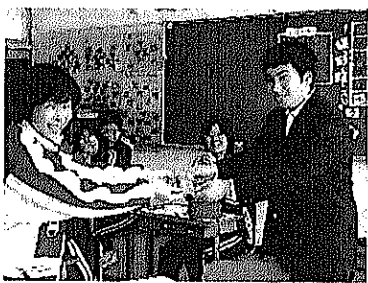
### 1時限 クイズ「ガーナ DE ビンゴ」

まずは、これから学習するガーナという国と楽しく出会わせたいと考えた。国際理解教育の基本姿勢として大切なのは、途上国の人々に対する「肯定的感情」である。それがあってこそ、「その国を理解しよう」とか「自分も何か役に立ちたい」という気持ち

ちが生まれてくる。そこで、ガーナに関するビンゴクイズを実施した。このクイズは、仙台での事前研修の際に紹介してもらったものに、私自身が現地研修で見聞きしたものを加えて作った(資料1)。学習の雰囲気盛り上げるために、ガーナの音楽テープを流しながらクイズを行った。解答は、ガーナで撮影した写真やお土産として持ち帰った品物を見せたり、JICA専門家山崎丈さんの「ガーナだより」を引用させてもらったりしながら進め、楽しく肯定的な感情で異文化を受け入れられるよう留意した。優勝者にはガーナのチョコレートを進呈し、楽しく授業を終えた。



ガーナの衣装を着てご機嫌!



おめでとう! 商品はガーナのチョコです!

#### 生徒の感想

ガーナのことたくさんわかって楽しかったです。カカオ豆が幹から実るなんて知らなかったけれど、写真を見てとてもびっくりしました。先生が写真を見せてくれたので、よくわかりました。お母さんにもガーナの写真を見せたいな。

## 2時限 「無人島ゲーム」 ～Needs? or Wants?～

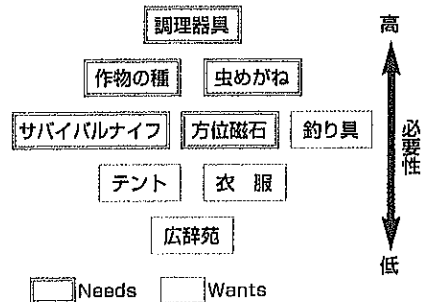
課題：無人島で暮らすことになりました。必要なものを9個まで持って行ってよいとしたら何を持っていくますか？

人間の生活にとって必要不可欠なもの（Basic Human Needs）とあった方がいいもの（Wants）を考えるゲームである（古今書院「新しい開発教育のすすめ方」参照）。課題に沿って、個人で自由にリストアップした後、全員で話し合って9個に絞り込ませた。さらに必要性が高いと思うものから順位付けをしてダイヤモンドランキングを作成した。無人島で暮らすために必要なものをランキング図に表わすことが、途上国自立のための必要条件を考える糸口になると考えたからである。

「衣・食・住」を確保するためのものが確実に上げられる一方で、「広辞苑」のような教育関連の品がリストアップされたのがおもしろかった。（生徒にと



作物の種は、ぜひ必要だよ



<生徒が考えたダイヤモンドランキング>

って「広辞苑」はあくまで暇つぶしのための「Wants」であり、途上国の人が必要とする「教育=Needs」にあたるものではない。このことは、次時に『教育は「Needs」か「Wants」か』で考えることになる。生徒にとっての「Needs」は、「命を確保するためのもの」であり、「人間らしく生きる」という概念は持てないようであった。一方で、「医療」に関わるものが1つもリストアップされないのは驚きだった。それだけ日本が恵まれているということか…。

### ■生徒の感想

無人島に持って行く物…と考えた時、NeedsじゃなくてWantsばかり頭に浮かんでしまいました。恵まれてきている日本人だから本当に必要な物がわからないのかも…とってしまいました。

## 3時限 教育はNeedsか？Wantsか？

前時の「広辞苑」を受けての授業である。生徒がリストアップした「広辞苑」はあくまでも「ひまつぶしのためにあったら便利だな」という程度の「Wants」であり、途上国の人が必要とする「教育=Needs」にあたるものではなかった。そこでこの授業では、正面から『教育はNeedsか？Wantsか？』と問いかけて、教育の必要性について考えさせたいと思った。

しかし、日本の子ども達にとって読み書きできるのは当たり前で、読み書きできないことがどういうことか理解するのは難しいだろう。そこで、「非識字

体験」を授業に取り入れ、非識字が生命の危機にもつながることを実感させたいと考えた。また、人間らしく生きるために読み書きがどんなに大切か、日本の識字学級で字を覚えた人の手紙（資料2）やガーナの成人識字学級の取り組み例などをもとに考える取り組みをした（資料3）。

「非識字体験」：ネパール語で「水」「塩水」「砂糖水」と書いた3つのコップを用意し、中にそれぞれ書かれてある通りのものを入れる。生徒3人にそれぞれ母親、兄、弟役を依頼。弟が病気になったと設定し、母親に薬局



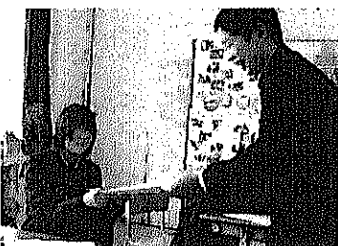


## 5時限 貿易ゲーム (開発教育協会「新・貿易ゲーム」参照)

貿易をシミュレートしたゲームを通して、世界の富が不平等に分配されていることを知るとともに、途上国の立場を共感的に理解し今後の課題を考える授業である。通常は20人程度でやるゲームなので、全員で6人という本学級には不向きである。しかし今回は、『世界には「技術と富はあるが資源を持たぬ国」と「資源は潤沢にあるが生産手段を持たぬ国」が存在し、その間で不平等を広げる貿易が行われていることに気付かせること』にポイントを絞り、多少強引ではあったが授業に取り入れてみた。生徒は非常に意欲的に取り組み、たくさんすることに気付き、



ここにオリジナルマーカーを書いて高く売ろう



僕の国の鉛筆と君の国の紙を交換しようよ

考えてくれた。

ゲームの時は勝つために周りなど全く無視して製品を作っていた生徒達が、振り返りを通して「無関心」や「無理解」の罪に気付いていることが嬉しかった。「共感的理解」の姿勢は生徒達の中に確かに芽ばえつつあると感じた。

### 生徒の感想

- ・先進国と開発途上国の格差の原因は、先進国が持っている「自分の国よりもあっちの国は技術がないんだ。」という考え方だと思う。互いにライバル視してもらうことばかり考えている。他の国を信頼していないからだと思う。貿易で、他の国との間に信頼できる交流がないことは、良くないと思う。
- ・世界の富は、お金や道具を持っている国がとても儲かって、持っていない国との差がどんどん大きくなるしくみになっている。激しすぎる貧富の差は、あってはならないと思う。先進国の人が開発途上国の人の一番必要なものを考えて支援して、激しい貧富の差が小さくなるのが理想的だ。
- ・最初に富を得た国は、自分が貧しかった頃の気持ちを忘れてしまうから、原料を分けるにしても、技術を教えるにしても、自分の国が有利になるよう考える。だから貧富の差がどんどん広がっていくのだと思う。「世界は平和が一番」っていうけど、私たちがこういう心の問題を真剣に考えないといけないと思った。

## 6時限 貧困の環を絶つ

最後に開発途上国への支援について考えたいと思いこの授業を行った。これはユニセフのプログラムで、途上国に見られる貧困の悪循環を理解し、それを絶つ方法を考えることで国際協力について理解するというものである。貧困の環を絶つ方法を出し合ったところ、ほとんどの生徒が「豊かな国が資金を援助する」「食料や医薬品を送る」「募金やドラえもんダイヤルに電話する」などの「物的支援」をあげた。しばらくしてある生徒が「仕事に就けなくて困っている人を日本に呼んで、仕事の技術を教えてあげればいい。教えてもらった人は国に帰ってから自

分が習った技術をまわりの人に教えればいい。」という意見を出した。いわゆる技術援助や人的支援にあたる考え方である。この意見をきっかけに生徒の視野が広がり、考えが深まっていった。青年海外協力隊員やNGOの活動なども出されるようになり、途上国への支援は、「短期的視野」と「長期的視野」の両面から行われていることに気付いていった。これを受けて、教師がガーナで見聞きした青年海外協力隊員の話をし、協力隊員の熱い思いを生徒に伝えた。生徒達はじっと聞き入っていた。最後に、まとめとして、今回の学習を通しての感想を書いた。

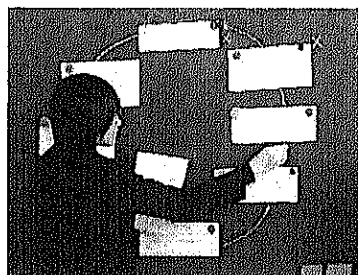
## 実践後の生徒の感想より

- ・私は以前にもこのような学習をしたことがあるにもかかわらず、あまり実感したことがありませんでした。世界にはいろいろな国があって、貧富の差が激しいということもわかっていました。しかし、実際にどんなに大変で難しい問題が起きていてその国には今どんなものが必要なのか、深く考えていませんでした。今までは「可哀相」で終わっていましたが、この授業をして、それだけで終わってはいけないということをしっかり学びました。「可哀相」じゃなくて、その国のために自分にできることをする。どんな小さなことでも、その国の子ども達や大人達のためになること。そんな考えを持つことができました。
- ・ガーナのことを少し知って、印象的だったのは、子ども達が破れたボールやタイヤなどで楽しく遊んでいるということでした。僕の家には破れていないボールがあるけど、僕はあまりボールで遊んではいませんでした。僕はボールでの楽しい遊び方を知らないのかなあと思いました。それに比べて、ガーナの子ども達は破れたボールでも楽しく遊べるということは、心がしあ

わせなのかも知れないな。僕は、豊かな国よりも貧しい国の方が幸せに暮らしている面もあるのではないかなあと思いました。

- ・今回の学習を通して、私は視野が広がったような気がします。私は世界のことをあまり知りませんでしたが、この学習を通して世界のことが少しわかった気がします。私たちの知らないことがこの世界にはたくさんあるけど、結局、今私たちにできることは、その国のことを少しでも知って、誤った偏見を持たないこと。政治のことはよくわからないけど。私たち1人ひとりがそういう意識を持てば、そこからかわっていくものだと思います。

私ならここで貧困の環を絶ちます



## 成果と課題

今回の実践で、目指す生徒像を明らかにし系統立てた実践を積み重ねれば生徒の学びは確実に深くなることを実感できた。また、「無人島ゲーム」から「教育はNeedsか？ Wantsか？」に発展したように、生徒の発言や疑問から次時の授業を仕組むことも効果的であった。この授業を「ガーナの時間」と呼んで楽しみにする生徒も見られ、授業後にも自分の考えを話しに来る生徒が見られるようになった。生徒達の受け止め方や考え方が次第に広がり深まりを増し、手応えを感じることができた。ガーナでの研修という貴重な体験を教材に活用できた効果は大きかったと思う。

一方で、体験を教材化する際は、目的に合っている

かどうか、考えさせたいポイントが明確であるかなどを十分吟味しなければならないと痛感した。「ビンゴクイズ」や「違いを考える」授業の教材を考える際に、知らず知らずのうちに生徒の興味をかき立てることを主眼としてクイズを作ったり、一面的な違いをあたかもガーナ全体がそうであるかのように誤解される表現をしていなかったかなど、反省点も多い。また、今回は時間的な制約もあり、殆どが単学年のみの実践に終わってしまったので中学校全体を巻き込んだ実践にできなかったことも今後の課題である。

今回の授業をきっかけとして、地球市民としての視野から世界を見つめ、積極的に国際理解に努めようとする生徒が1人でも多く育ったら嬉しいと思う。

### 参考資料

- ・「新しい開発教育」 古今書院
- ・「ワークショップ版世界がもし100人の村だったら」 開発教育協会

クイズ「ガーナ DE ビンゴ」

「クイズ」ガーナ DE ビンゴ！

- 1 ガーナはどこにある？  
①東アフリカ ②中央アフリカ ③西アフリカ
- 2 ガーナの面積を日本と比べると？  
①2倍 ②3分の2 ③半分
- 3 独立する前はどこの植民地？  
①イギリス ②フランス ③スペイン
- 4 首都の名前は？  
①アビジャン ②アクラ ③ロメ
- 5 空港の名前は？  
①コトカ ②コトコ ③コトキ
- 6 年末年始のガーナ名物「ハマターン」とは何？  
①雨期(雨ばかりの季節) ②台風 ③黄砂(砂が飛んでくる)
- 7 ガーナにある世界一の湖はボルタ湖。では、何が世界一？  
①大きい人造湖 ②貝が採れる ③発電量が少ない
- 8 ガーナで死んだ野口英世は、ガーナで何を研究していたの？  
①マラリア ②黄熱病 ③デング熱
- 9 野口英世の銅像がある病院は？  
①ラボネクリニック  
②コレブホスピタル  
③レゴン大学病院
- 10 初代大統領の名前は？  
①アナン ②ローリングス ③エンクルマ
- 11 ガーナ人はおもしろい名前の付け方をするが、それは？  
①生まれた順番によって付ける名前が決まっている  
②生まれた場所によって付ける名前が決まっている  
③生まれた曜日によって付ける名前が決まっている
- 12 ガーナ人が使うもので、芸術的で有名なものは？  
①杖 ②霊柩車 ③棺桶
- 13 ガーナ北部の家の特徴は？  
①100メートル以上の長屋  
②椰子の実の飾り  
③きのこのような形
- 14 タクシーの特徴は？  
①黄色い旗  
②運転手の黄色い帽子  
③黄色いボディ
- 15 アンカサ国立公園で見られる大きな植物は？  
①スイカ ②竹 ③椰子の木
- 16 カカオまめはどのようにして実っている？  
①ぶどうのように固まって実る  
②木の幹から直接実る  
③木の根本の地面から実る
- 17 ガーナで売られているミネラルウォーターの名前は？  
①コカ・ウオーター ②エヴィオン ③ヴォルピック
- 18 ガーナで主食として食べる果物は？  
①りんご ②バナナ ③マンゴー
- 19 ガーナの道ばたでよく見かける店。間違っているのは？  
①ペーカリーショップ  
②門扉屋さん  
③新聞屋さん
- 20 ガーナの通貨の単位は？  
①ガーナドル ②セディー ③ガーナポンド
- 21 ガーナに先生は、一ヶ月に日本円にしてどのくらいのお給料をもらっているの？  
①80万円 ②10万円 ③1万円
- 22 ガーナのことわざ、「アチン エチン セン エニン エニン」の意味は？  
①かわいい子には旅をさせよ  
②目の上のたんこぶ  
③頭かくして尻かくさず
- 23 ガーナにある27のお城が全て海の近くにあるのはなぜ？  
①海賊をやっつけるため  
②舟に荷物を載せやすくするため  
③海が好きな王様がつくったから
- 24 高校を卒業する時、女の子がきまってしまうところはどこ？  
①写真屋さん ②美容院 ③携帯電話屋さん
- 25 ガーナの国旗は、赤・黄色・緑3色の帯と中央の黒い星が特徴。次の説明で間違っているのは？  
①赤は、独立のために戦った人々の血の色  
②黄色は、アフリカの土の色  
③黒い星は、黒人の自由・独立・統一

※ オレンジ色文字が正解です。





資料 4時限

題 違いについて考えよう

**1**  
 ガーナのアナン君は肌の色が黒いが、日本の恒君は白(黄色)い。

**2**  
 ガーナのアレックス君は予防接種を受けたことがなく、今ポリオにかかっている。日本では予防接種が徹底されており、ポリオの子どもはいない。

**3**  
 ガーナのアマさん(10歳)は、家の手伝いのため学校に行っていない。日本では、小中学校が義務教育なので、幸子さん(10歳)は、毎日小学校に行っている。

**4**  
 ガーナでは破れたボールやタイヤで遊んでいる子どもが多い。日本ではテレビゲームをしたりマンガを読んだりして遊ぶ子どもが多い。

**5**  
 ガーナでは水道設備のある家は少なく、村にある共同井戸の水を使うが、必ずしも安全な水ではない。日本では蛇口をひねるといつでも水が使える家が多い。

**6**  
 ガーナでは品質の良いカカオ豆が採れるが、自国の工業製品はそう多くない。日本は農作物自給率は低いが、工業製品をたくさん輸出している。

**7**  
 ガーナでは、家では部族語で学校では英語で話す。日本では、家でも学校でも日本語で話す。

**8**  
 ガーナのジョン君の家は、粗末な土壁にわら屋根。日本の健一君の家は、鉄筋コンクリート3階建てである。

**9**  
 ガーナのエボ君は、学校から帰ると家のために水汲みをしなければならない。日本の桜子さんは、学校から帰ると学習塾に行かなければならない。

**10**  
 ガーナでは、裸足で粗末な身なりのをした子どもが多い。日本では、毎日別の服を着て、靴もたくさん持っている子どもが多い。

**11**  
 ガーナのエコ君(16歳)は、両親がなくストリートチルドレンとして靴磨きをして路上生活をしている。日本では、親を亡くした子は施設に保護される場合が多い。

**12**  
 ガーナでは、電話する時はコミュニティセンターまで行かなければならない人が多い。日本では、携帯電話の普及で、いつでもどこでも電話できる人が多い。

ガーナ  
Ghana

### 参加動機およびプロフィール



教職11年目の中学校社会科教師です。「地理や歴史を学ぶことで、地球に生き、長い歴史を築いてきた人間の素晴らしさに気付かせたい。そして、地球上の全ての人々を自分や家族と同様に愛し、全ての「家族」が希望と誇りを持って生活できる社会のために、自分にできることを考え実行できる生徒を育てたい。」…ちょっと大げさですが、社会科教師として私の思いです。そしてこの思いは私の国際理解教育のねらいとも多く重なっています。

「実りある国際理解教育を実践するために、私自身が開発途上国を心と体で体験してみたい。」そんな思いでこの研修に参加しました。

「途上国のために何かできる生徒を！」焦りにも似た思いでそう考えていた私ですが、今回の研修で「大切なのは共に生きようとする心を育むこと」と強く思うようになりました。心の伴わない活動は形だけにすぎません。「共に学び考えていくなかで、生徒達はきっと自分にできることを考え歩み出してくれる。私はその土台を作ろう。」今、私はそう考えています。

# ぼくのアフリカ・わたしのアフリカ

岸 良宏 KISHI YOSHIHIRO

数学科  
山形市立第三中学校（山形県）

実践教科 総合的な学習の時間

時間数 13時間

対象学年 1年生

対象人数 40人

## カリキュラム案

### 実践の目的

- ①アフリカ諸国の文化や歴史などに関する興味・関心を高め、日本と比較しながら他国を知ろうとする意識を育む。
- ②開発途上国の現状と先進国との関わりをとらえ、世界の中で協力して生きていこうとする態度を育む。

- ③奴隷貿易やアフリカに対する植民地支配の顛末から、人間の過ちについて考え、自らの生き方に向けて。
- ④調べ方、表現の仕方、まとめの方法などについて、実践を通して身につける。

### 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1～2時限</b> ガーナ共和国を見る ・ガーナ共和国をアフリカ諸国の一例として、アフリカに対するイメージの拡張を図る。 ・現地と日本との生活の違いをとらえる。 ・JICAの活動の様子、生活向上に努力する人々の様子を視覚から感じ取る。	①アフリカ諸国に対するイメージ調査。 ②ガーナ共和国の映像を見る。 ③いろいろな国の働く子供たちのビデオを見る。 ④振り返り（感想の記入、発表）を行う。	・アンケート用紙 ・映像（研修で撮影） ・ビデオ（unicef） 「私たちが忘れないで」 ・感想記入用紙
<b>3時限</b> 南北問題 貿易ゲームを行い、経済格差が拡大していく仕組みを体験する。	①前時の映像や写真より、日本と開発格差が大きかった点を再確認する。 ②貿易ゲームを行う。 ③振り返りを行う。 ④初期設定の不平等さ・不正さ、経済格差が拡大していく仕組みについての解説を聞く。	・貿易ゲーム用具（はさみ、定規、鉛筆、紙など） ・感想記入用紙
<b>4時限</b> 奴隷貿易、植民地支配 世界的な人間の過ちの1つを知る。	・地図、資料、物を通して学び感想を記入する。	・世界地図、ガーナ共和国国旗、ビーズプレスレット ・収容所の映像 ・「あなたがもし奴隷だったら」（あすなる書房） ・奴隷船摘発の記事（朝日新聞2001年5月） ・感想記入用紙

時間・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>【5時間】</b> 4時間の学習の振り返り これまでの学習を振り返り、各自のテーマを持つ。	①4時間の学習内容を振り返る。 ②各自のテーマで、アフリカ諸国を知る感じる。 ・製作コース（面・人形・ビーズ製作） ・活動発表コース（踊り） ・調べ学習コース（歴史・文化・生活・奴隷・援助） の3コースから各自選択する。	・振り返り記入用紙 ・希望調査用紙
<b>【6〜12時間】</b> コース別学習 各自のテーマをもち、それぞれのコースで「アフリカ」を深める。	各自のテーマに沿って活動する	<b>【制作コース】</b> 紙粘土、絵の具、ラッカー、面の土台用段ボール、人形の骨組み用針金、ビーズを通す糸 <b>【活動発表コース】</b> 研修で撮影した映像 <b>【調べ学習コース】</b> インターネット、書籍など
<b>【10時間】</b> テーマの分かち合い 各自の「アフリカ」を発表して分かち合い、まとめる。	<b>【制作コース】</b> 展示発表を行う。 <b>【活動発表コース】</b> 全体の前で発表を行う。 <b>【調べ学習コース】</b> ポスターセッション形式で発表を行う。	<b>【制作コース】</b> 作品 <b>【活動発表コース】</b> 発表のための衣装・剣 <b>【調べ学習コース】</b> 発表資料

## 授業の詳細

### 【1〜2時間】

#### ガーナ共和国を見る

##### ①アフリカ諸国に対するイメージ調査

アフリカに対するイメージ調査をフリー回答（アフリカから思いつくものを自由に挙げさせる）で行った。次の表にその結果を簡単に示した。

およそ20%以上の生徒から挙げられたもの

国名	特になし
環境	暑い・砂漠・森林
動物	ゾウ、ライオン、ゴリラ、カバ、ワニ、キリン
生活	民族衣装、家・水道・食べ物が無い、貧しい 八工が多く不衛生
人	黒人、裸足、髪が短い、白い歯、背が高い

その他

【歴史】；植民地、奴隷  
 【産物】；チョコレート  
 【民族】；マサイ族、多数の民族  
 【建造物など】；ピラミッド、スフィンクス、ナイル川  
 【スポーツ】；サッカー

### 【所感】

アフリカの諸国に関わる情報は、自ら積極的に収集をしない限り、TV等で放映される内容や学校で社会科の授業として学習した内容以外に知り得る機会は少ない。また、TV等で放映される内容は、社会的問題性のあるものや動物などの自然を扱ったものが多く、また、社会科の授業では、日本と外交面に関わりが深い内容や歴史的に日本と関わった内容を主として学習する。従って、多面的にアフリカ諸国をとらえている生徒は少ないということが予想された。調査の結果は予想通りであり、一言で言えば「未開」であるとか「貧しい」といったイメージを持つ生徒が多かった。

### ②ガーナ共和国の子どもたちの映像を見る

#### 〈映像内容〉

- ・学校での子どもたち
- ・仕事をする子どもたち（水くみ、物運び、物売り）
- ・村の広場で遊ぶ子どもたち



- ・街並み
- ・女性の自立支援活動
- ・母親の勉強会／乳幼児検診

### ■生徒の感想

- ・ダンスを見て、ガーナの人はノリがいいと思った。
- ・学校にいけない子ども達は、学校にいける子ども達のことをどう思っているのだろう。
- ・思ったより学校（建物）が立派だった。
- ・アフリカはたいへんなところだと思っていたが、笑っている子どもがいたのでよかった。
- ・自動車がたくさんあって、びっくりした。
- ・自分たちの生活と全然違って、ショックだった。自分が今こうして生きていることが、とても大きなことだと思った。
- ・自分にも何かできることはないだろうかと思った。

### ③unicefのビデオ「私たちを忘れないで」を見て

#### 〈映像内容〉

- ・ゴミから売れるものを拾う少女
- ・薪運びをする少女
- ・絨毯をつくる少年
- ・難民キャンプの少女
- ・燃料にする牛の糞を拾う少女
- ・水運びをする少女
- ・ロープで舟を引き、荷物運びをする少年

### ■生徒の感想

- ・学校に通って、食べ物も三食を食べられるのが「普通」だと思っていたけれど、学校にいけなくて、働いてお金を稼がなければならないことが「普通」の子どもいることが分かった。
- ・水を遠くまで汲みに行ったり、木を拾ったりするのは、子どもにとってたいへんなことだと思う。日本に生まれてよかったと思ってしまった。
- ・学校にも通わないで、仕事をしているなんてすごいと思った。同じ地球でも、いろんな人がいて、いろんな暮らしがあるんだなあと思った。

### ④⑤時間

## 南北問題

貿易ゲームを行い経済格差が拡大する仕組みを体験した。

#### 〈方法及び設定〉

- ・6班（6～7名）編成。先進国2班、開発途上国2班、後発開発途上国2班で実施。世界銀行および国連は指導者が担当。
- ・市場価格の変動は1回行い、他の設定はなし。

### ■生徒の感想

- ・世界の北と南で差ができる様子を体験できた。悲惨な状況だと思った。
- ・貧しい国はいつまでも貧しいままで、金持ちの国はいつまでも金持ちのままできてしまう気がした。でも、世界には多くの人々がいて、貧しい人がいるからこそ金持ちの人がいることを忘れてはいけないと思った。

### ④⑤時間

## 奴隷貿易、植民地支配

以下の事柄を地図、資料、物から学び、奴隷貿易、植民地支配についての感想を記入した。

- ①「アフリカ」の語源が「植民」であることを知る。
- ②アフリカ大陸が中央の世界地図やガーナ共和国の国旗を見て、直線的国境と国旗に意味づけられた国家独立の喜びや決意を知る。
- ③ビーズプレスレットを各自が手にした上で、トレードビーズについて知る。
- ④奴隷貿易に関わるいくつかの情報（収容所の様子、奴隷船内部の様子、近年の奴隷船摘発の出来事）を得る。
- ⑤振り返りを行う。

### ■生徒の感想

- ・収容所や船の中で、物としての空間しか与えられていないことが、より残酷だと思った。
- ・奴隷にされても、みんなで逆らったりすれば何とかだったのではないかと思った。
- ・同じ地球にいて、同じ人間なのに、なぜそんなことをするのか、ひどすぎると思った。

・収容所の最後のドアの「DOOR OF NO RETURN」と、  
わざわざ表示する神経が（人道的に）理解できない

## 5時間

### 4時間の学習のふり返し

#### ①4時間の学習内容をふり返る

前次までの学習で見た映像内容、アクティビティを振り返り、印象に残ったものを3つまで順位をつけて挙げた。これは生徒の関心傾向を把握するとともに、その後行うコース別学習の選択とテーマ設定を各自に整理させるために行った。また、今までの学習の中で不思議に思ったことや疑問に思ったこと、もっと知りたい、調べたいと思ったことを挙げた。

以下はその結果である。

#### 1番印象深かったとして挙げられたもの

- 1 貿易ゲーム（南北問題）（36%）
- 2 奴隷貿易（27%）
- 3 学校の様子（映像）（20%）
- 4 ストリートチルドレン（映像）（5%）

#### 不思議に思ったこと、疑問に思ったこと

- ・南北問題のような格差が、なぜできてしまったのか。また、ガーナ共和国など、1つの国の中にも、なぜ貧富の大きな差ができてしまっているのか。
- ・アフリカ各国の寿命が短いのはなぜか。
- ・子どもが働かなければならないのは、なぜか。
- ・学校に通える子どもの親は、どんな仕事・生活をしているのか。
- ・ストリートチルドレンは1日にどれくらい稼げて、それは生活するのにどのくらいの価値の金額なのか。
- ・同じ地球上の人間同士なのに、なぜ奴隷というものをつくってしまったのか。

#### もっと知りたいこと・調べたいこと

- ・学校の様子、学校の授業の様子、学校で学習する内容
- ・学校に通うことができる子どもは、全体の何%位か
- ・子どもの1日の生活
- ・ストリートチルドレンの1日の生活
- ・アフリカの人々が奴隷にされてしまった理由
- ・奴隷貿易の歴史
- ・奴隷の仕事内容
- ・トレードビーズについて
- ・アフリカの習慣
- ・アフリカにどんな店があるのか

#### ②各自のテーマで、アフリカ諸国を知る・感じる

以下の3つのコースから各自選択した（カッコ内は選択者の人数）。

- ・製作コース〔面（4）、人形（5）、ビーズ製作（7）〕
- ・活動発表コース〔踊り（5）〕
- ・調べ学習コース〔歴史（5）、文化（3）、生活（7）、奴隷（3）、援助（1）〕

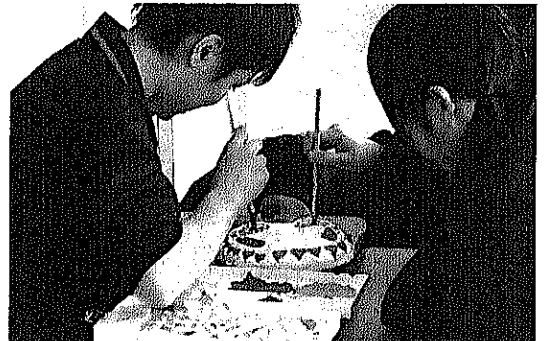
## 6～12時間

### コース別学習

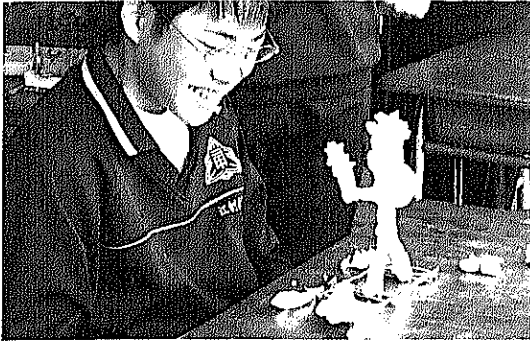
#### ・製作コース

紙粘土で制作→色塗り→ラッカー塗り→解説をつける

〔面〕



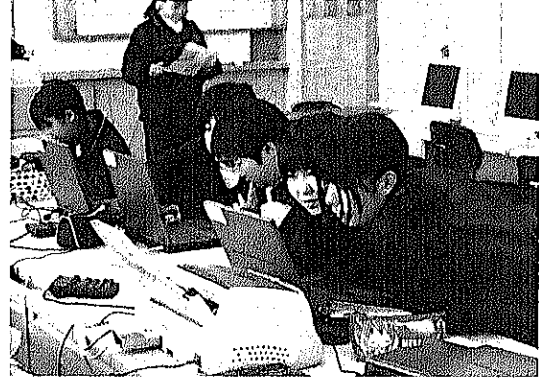
【人形】



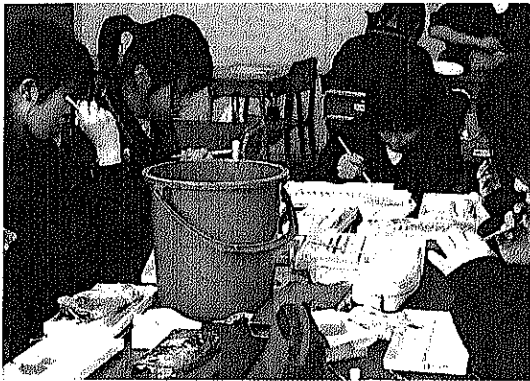
・調べ学習コース

資料（インターネット、書籍など）をもとにまとめる

【歴史・文化・生活・奴隷・援助】



【ビーズ製作】



13時限

テーマの分かち合い(コース別の学習発表会)

展示の部

【製作コース】

●パウレ族ゴリダンスプレプレ仮面 (写真①左)

(解説) パウレ族のダンスに用いられる仮面。他にも4種8体の仮面がある。

(感想) 本物とよく似た仮面ができた。色は、少しアレンジした。

●バ・クレ面 (写真①中央)

(解説) 西部ダンに見られる仮面。人々を面白がらせる男の道化役を演じる。

(感想) 本物と似ていないが、自分なりに良くできた。

●エケ族の仮面 (写真①右)

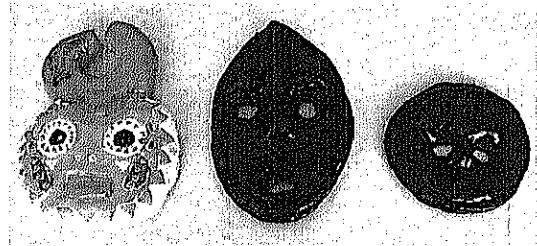
(解説) ニジェル川河口付近に住むエケ族の仮面。葬儀・儀礼・ヤム芋の農業祭に使用する。

(感想) 円形にしたり、目をくり抜くのが難しかった。

・活動発表コース

映像から覚える。民族の踊りの意味合いも調べる

【踊り】

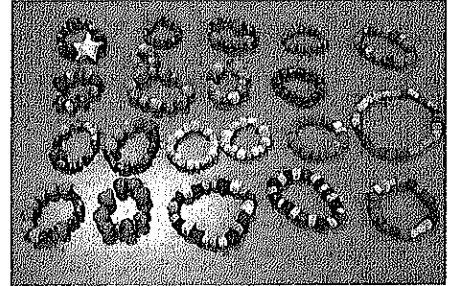


写真①

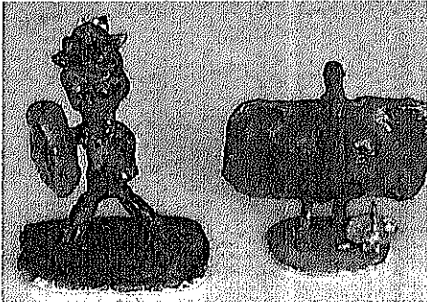
●セヌフォ族カラオ (写真②右)

(解説) カラオは日本ではサイチョウという名で知られ、セヌフォ族ポロとよばれる男子秘密結社があり、この巨大な立像を神聖な森に安置する。カラオは別名ポロピアノンといい、ポロの子供達の母という意味がある。

(感想) 腹のふくらみをつけるのがたいへんだった。この像のモデルとなった鳥が、上野動物園にいることを知って驚いた。



写真④

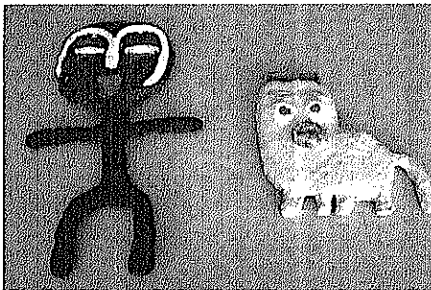


写真②

●アクワバ人形 (写真③左)

(解説) ガーナ共和国の人形。持っているとき、美人の子どもが生まれるという伝説がある。

(感想) 日本の人形のように作り変えてみた。伝説がおもしろいと思った。



写真③

●ビーズ製作

(感想) ・カラフルにアフリカらしくした。マールプにしたり、色遣いが難しかった。  
・ちょっと雑になったが、それもアフリカらしくていいと思った。  
・数珠みたいになってしまった。  
・先生にももらったような細かな色遣いにはできなかったが、カラフルにできて良かった。

発表の部

【活動発表コース】

●踊り

【調べ学習コース】

●歴史

(内容) ・古代王国の発展について

・ナイル川河口、ニジェール川中流に栄えた王国について

(感想) ・アフリカの歴史は、いろいろな国と関わった出来事が多いことが分かった。

・いろいろな国から植民地にされていたことが分かった。

●文化

(内容) ・民族衣装・食材と料理、値段・アフリカ音楽・音楽の分類、楽器

(感想) ・カラフルできれいな衣装が多くあった。

・おいしそうな食べ物があった。ネズミの肉や虫を食べているのは気持ち悪い。

・植民地にされながらも、アフリカの音楽がつぶされなかったことがうれしい。

●生活

(内容) ・ガーナ国家データ (首都・人口・国旗・言語について)

・子供の1日 (仕事)

(感想) ・ガーナのことを詳しく分かった。

・いろいろな言葉を調べた。遣ってみた。

・自分たちと同じくらいの子供が、学校に行かずに家のために働いていて、アフリカの子供達はすごいと思う。

### ●奴隷

- (内容) ・三角貿易  
 ・1日の食事  
 ・船内でえられた空間  
 ・奴隷制度廃止年表

- (感想) ・昔の出来事だと思っていたが、最近まで続いていたことが分かった。  
 ・ひどい扱いをされていたことが分かった。  
 ・奴隷として使った国の人達は、この出来事をどう思っているのだろうか。

### ●援助

- (内容) ・JICAの援助の仕方を4つに分類

- (感想) ・援助は、簡単なことだと思っていたが、たいへん苦労があることが分かった。  
 ・援助の種類にもいろいろあることが分かった。



調べ学習コースによる発表

### ■発表を終えての生徒の感想

#### ①印象の変化

- ・アフリカは世界の中でもいろいろなことがあったとこ

ろだと思う。でも、昔のような奴隷貿易がなくなって、少しは平和に近づいていると思った。

- ・色にたとえば茶色だったが、自動車・バス・大きな建物もたくさんあってカラフルなイメージになった。
- ・草原しかないと思っていたけれど、にぎやかな街もあってびっくりした。

#### ②問題解決のために意識の向上

- ・日本とは全然違うなあと思い、悲しくなった。みんなどの国も平等になればいいのだけれど、平等になることはきっと難しいことなんだろう。
- ・世界みんなが同じくらいのお金を持っていて、貧乏な人がいなかったら、どうなるのかなあと思う。
- ・世界には、自分の国や人の国のために一生懸命がんばっている人がたくさんいることが分かった。
- ・アフリカの人達はかわいそうだと思っていたが、「かわいそう」ではなく、「何かできることはないか」ということを考えて実行していきたいと思った。

#### ③アフリカ諸国以外の国に対する印象の変化

- ・アメリカやイギリスの奴隷貿易は、人を人として見ないひどいことだと思った。1863年にリンカーンが奴隷解放宣言をしたが、最近まで変わらず奴隷貿易を続けたり、差別をしていたことを知り、アメリカやイギリスに対する印象が変わった。

#### ④自分の生活の見直し

- ・いろいろな厳しい環境で生活をしたり、ぼろぼろの文房具を大切に使っているのを見て、自分たちはずいぶん贅沢な暮らしをしていることが分かった。もっと物を大切にして生活しようと思う。

## 成果と課題

### 実践の目的に関連して

- ①授業最初に行ったイメージ調査と授業での生徒の感想を比較したところ、アフリカ諸国に関してより知りたいという思いが高まったようであった。また、制作・活動・調査の3つの分野を自由選択して、自分なりの方法・内容でそれぞれが感じたアフリカを掘り深めることで、その思いを助長す

ることができた。

- ②開発途上国、後発開発途上国、先進国それぞれの関わりについては、経済(貿易ゲーム)や支援という視点で学習した。しかし、それらの関わりを具体的に広げて学習するに至らなかった。また、「世界の中で協力して生きる態度を育む」点でも、自分のできることを考える授業を設定しなかったため、成果を得ることができなかった。授業構成



# ガーナへ行こう！

野澤敬之 NOZAWA TAKAYUKI

社会科  
十和田市立東中学校（青森県）

実践教科 選択社会科・道徳  
時間数 9時間  
対象学年 3年生  
対象人数 25人（道徳については70人）

カリキュラム案

## カリキュラム案

### 実践の目的

国際理解教育や異文化理解教育が多くの学校で実施されている。その実践は、国際的な感覚を育てる実践だったり、異文化を理解する実践だったりする。確かに外国の文化を教える事は重要な事であろう。しかし、それだけでは国際理解教育と言えないのではないか。

実践していく上で国際理解教育には次の2つの側面があることを頭の中に入れておかなければならない。ひとつには、授業の目標を国際理解におく事、つまり内容として国際理解を教えることである。もうひとつには国際理解教育を利用して、どういう資質・能力を育てていくかということである。徐々に後者の実践が多くなっては来ているが、前者でしか国際理解教育をとらえられていないことも多いように思われる。これからの国際理解教育は、この2つの側面を備えた実践でなければならない。

国際理解教育を通して、学習した内容を深化させ、自分で考えて行動できる資質を育てる事も大切であると考えます。

そのためには、グローバルな問題が実は自分達が生活するローカルな問題と密接に関連する事に気づかなければならない。そうすることによって、国際的な問題を自分達の問題としてとらえ、深化・行動できるようになるのである。

また、最近は犯罪が低年齢化し、小・中学生の凶悪犯罪が目立っている。このような状況では今の生徒に道徳的な価値観を持たせること、道徳的実践力をつけることも大切なことであると考えます。

本教材は国際理解教育の2つの側面を備え、ガーナという教材を通して、ガーナの知識・理解を深めることはもとより、社会科（地理的・公民的分野）の力や道徳的実践力をも育てることを目的とした。

### 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限</b> 〈選択社会科〉 ガーナへ行こう！1 ガーナに対する学習意欲を持つ。	ガーナへ興味・意欲をもつ。 ・仮のパスポートをつくる。 ・ガーナの通貨（セディー）に両替する。 ・ガーナと日本の時差を計算する。 ・雨温図を読み取る。	・教科書 ・地図帳 ・電卓 ・時計 ・ガーナ主要都市の雨温図 ・ガーナの通貨（紙幣） ・ワークシート（資料1）
<b>2時限</b> 〈選択社会科〉 ガーナへ行こう！2 生存権・教育を受ける権利など、日本国憲法・子どもの権利条約が保障する具体的な権利を理解する。	権利の熱気球ゲームの実施 ・6つの権利から、大切な権利を考えていく。	・ヒューマン・ライツ「権利の熱気球ゲーム」 ・上空から撮影したサハラ砂漠の映像 ・効果音のCD ・ワークシート（資料2）

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>③時限</b> 〈選択社会科〉 1枚のガーナチョコレートから1 南北問題を考えるための導入。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナと日本のチョコレートを食べ比べる。</li> <li>・チョコレートの出来るまでをビデオから学習する。</li> <li>・カカオ豆の輸出量とチョコレート輸出量などの資料をもとに学習課題を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Golden Tree社（ガーナ資本）のチョコレート</li> <li>・日本製のチョコレート</li> <li>・ガーナで買ったCD</li> <li>・カカオ農園で撮影したビデオテープ</li> <li>・ココア・ボードで撮影したビデオテープ</li> <li>・国際協力9月号（4つのデータから見るアフリカ）</li> <li>・FAO農産物貿易年報</li> <li>・ワークシート（資料3）</li> </ul>
<b>④時限</b> 〈選択社会科〉 1枚のガーナチョコレートから2 （カカオ豆貿易ゲームⅠ） 貿易ゲームを通して南北問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習課題を再確認する。</li> <li>・カカオ豆貿易ゲームの説明をする。</li> <li>・カカオ豆貿易ゲームを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カカオ豆貿易ゲームに必要な道具一式</li> <li>・ワークシート（資料4）</li> </ul>
<b>⑤時限</b> 〈選択社会科〉 1枚のガーナチョコレートから3 （カカオ豆貿易ゲームⅡ） 貿易ゲームを通して南北問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の反省をして、利益を上げるための対策を考える。</li> <li>・カカオ豆貿易ゲームを再開する。</li> <li>・ゲーム終了後、ゲームを通して気付いたことや考えたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カカオ豆貿易ゲームに必要な道具一式</li> <li>・ワークシート（資料4）</li> </ul>
<b>⑥時限</b> 〈選択社会科〉 1枚のガーナチョコレートから4 （カカオ豆貿易ゲームⅢ） 貿易ゲームを通して南北問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に発表した「気づいたこと・考えたこと」をもとに、貿易の矛盾や今後の課題について考える。</li> <li>・学習課題「なぜガーナは、カカオ豆の輸出量が多いにもかかわらず、チョコレートの国内消費と輸出量が少ないのか」に対する「まとめ」を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カカオ豆貿易ゲームに必要な道具一式</li> <li>・国際協力9月号（4つのデータから見るアフリカ）</li> <li>・ワークシート（資料4）</li> </ul>
<b>⑦時限</b> 〈道徳〉 ガーナに賭けた青春 世界的な視野に立ち、人類の幸福のために貢献しようとする気持ちを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを見て、アチュワ村の実情を知る。</li> <li>・国際ボランティアの必要性を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA地球家族 意志あるところ、道は通じる ～ガーナ・アチュワ村にて～</li> <li>・ガーナに賭けた青春（資料5）</li> <li>・ワークシート（資料6）</li> <li>・クロスロード1989年4月号</li> </ul>
<b>⑧時限</b> 〈選択社会科〉 ガーナの小学校へ行こう！ 「子どもの権利条約」を通して、ガーナ理解と国際協力の必要性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナの小学校での授業風景や学校施設を見る。</li> <li>・ガーナが「子どもの権利条約」を批准していることを知る。</li> <li>・「子どもの権利条約」の内容を学習する。</li> <li>・ガーナに何が必要かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもによる子どものための「子どもの権利条約」</li> <li>・ノエムコミュニティ、アクロボンの小学校を撮影した映像</li> <li>・ワークシート（資料7）</li> </ul>
<b>⑨時限</b> 〈選択社会科〉 ガーナでの国際ボランティア活動 ガーナ理解と国際協力の必要性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナ家族計画協会、STM（ガーナ理科教育改善プログラム）の活動を知る。</li> <li>・国際ボランティアの必要性を考える。</li> <li>・自分にも出来る国際ボランティアを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナ家族計画協会の活動風景の写真</li> <li>・STMの山崎氏（JICA専門家）から配布された資料</li> <li>・半田青年海外協力隊員からの手紙</li> <li>・ワークシート（資料8）</li> </ul>



## 授業の詳細

### 1時限

#### ガーナへ行こう！ 1

ガーナ旅行へ出かけるために、まず目的地を確認する。ここでは、分からない都市の名前を索引から調べ、地図帳でその位置を確認する。日本とガーナの経度の違いから時差を計算し、時計をガーナ時間に合わせる。さらに、ガーナの気候も雨温図から読み取り、もって行く衣服を考える。その後、仮のパスポートをつくり、ガーナの通貨（セディー）に両替する。途中で為替が変動したことを生徒に告げ、変動後の為替相場場で計算する。このことによって、為替が刻々と変化している事を再確認できるものと考え。最終的に、旅行に必要なものを最終チェックさせ、ガーナへ行く熱気球に乗り込む。

#### ■生徒の感想

- ・今日は、パスポート作りやガーナの緯度・経度を調べ、雨温図、現地通貨の両替をしました。私は一度パスポートを作った事があるので、ほんの少しだけ覚えていました。お金の両替では、セディーの事や円高・円安の勉強もしました。難しかったけど、覚えておけば役に立つので、家でも勉強してみたいと思いました。
- ・ガーナについては何も知らなかったけど、パスポートの準備をしたり、両替の仕方を学んだりして、色々なこと知ることができました。時差の求め方や雨温図の見方を学んだりもして、地理の復習にもなり、とても良かったです。これからの「ガーナへ行こう！」の旅や、実際にガーナへ行くときに役立てたいと思います。



ガーナへ行こう！ 1 時差の計算

### 2時限

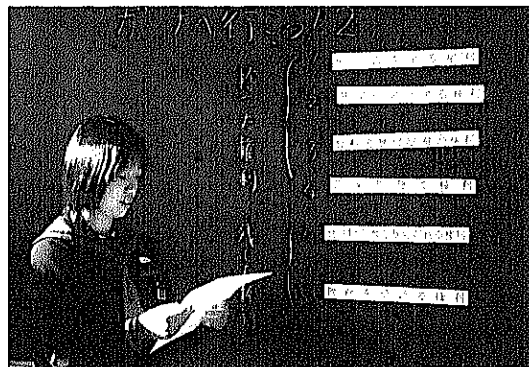
#### ガーナへ行こう！ 2

熱気球でガーナに向かう。熱気球には浮力を調節するための重りを積載するが、その重りの代わりに次のような権利を積載する。熱気球が、ガーナに向かう途中暴風に襲われ浮力を保つために積載していた重り（権利）を捨てていく。搭載する権利は「教育を受ける権利」や「教科書無償配布の権利」など。それらの権利を捨てていくことで、何が大切なのかを考える。さらに、普段気にはしていないが、多くの権利を持って生活していることを自覚する。熱気球に乗っていることをイメージするために、飛行機から撮影したサハラ砂漠の映像を使う。これは、ガーナの 아프리카での地理的位置を意識するためでもある。首都のアクラに到着するまでに2つの権利を残し、なぜその権利を残したのかを発表する。

私たち日本人にとっては当たり前である権利も、ガーナでは当たり前でないことを8時限と9時限に学習するので、本時はその伏線にもなっている。

#### ■生徒の感想

- ・「十分な食べ物と、きれいな水を与えられる権利」と「教育を受ける権利」は、どの班でも共通して残っていたものだったので、生きるうえで本当に必要な権利だと思った。日本では、この権利が当たり前になっているが、ガーナではこの権利が当たり前なのだろうか？
- ・ほとんどの班が、生きていくために必要な権利を残していた。でも、権利の熱気球ゲームがガーナとどうい



ガーナへ行こう！ 2 権利の熱気球の発表

う関係があるのか疑問に思った。

- ・捨てた権利の順番は、班によって違っていたけど、残した権利は、ほとんどの班が一緒だったので、やっぱり「十分な食べ物ときれいな水を与えられる権利」と「小・中学校で教育を受ける権利」は、大切だと思いました。

### 3時間

## 1枚のガーナチョコレートから1

自分たちが食べているチョコレートの原材料が、ガーナから輸入されていることを再認識する。ガーナで撮影してきたカカオ農園のビデオ映像から、どのようにカカオ豆が生産されているかを知る。ココア・ボード（カカオ豆輸出を管理している政府直属の役所）の映像からは、カカオ豆からチョコレートやココアが出来るまでを知る。日本人の多くは「ガーナと言えばチョコレート」という印象を深く持っている。しかし、カカオ豆の生産量（輸出量）、チョコレートの輸出量、主要国のチョコレート国内消費量の資料を読み取ると、そうでないことが一目瞭然である。そこで、カカオ豆の輸出量とチョコレート輸出量の違いから、「なぜガーナは、カカオ豆の輸出量が多いにもかかわらず、チョコレートの国内消費量と輸出量が少ないのか」という学習課題を立てる。

### 4～6時間

## 1枚のガーナチョコレートから2～4

（カカオ豆貿易ゲームⅠ～Ⅲ）

カカオ豆貿易ゲームを通して、南北問題を疑似体験する。カカオ豆貿易ゲームは、貿易ゲームをアレンジしたものである。ガーナはカカオ豆の生産をするが、商社は原材料であるカカオ豆を安く買い取る。商社は、若干の利益を上乗せをして先進国へ輸出する。先進国ではカカオ豆からチョコレートを作るが、

付加価値が付いているので、商社に高く商品を買ってもらうことになる（詳細については次ページ「カカオ豆貿易ゲームの詳細とルール」を参照）。

ゲーム終了後には、カカオ豆貿易ゲームを通して気づいたこと・考えたことを基に、貿易の問題点や今後の課題について考える。さらに、学習課題「なぜガーナは、カカオ豆の輸出量が多いにもかかわらず、チョコレートの国内消費量と輸出量が少ないのか」に対するまとめ、自分たちが予想したことと「まとめ」との比較をする。

最終的には、国際協力の必要性を考え、次時へつなげる。

### ■生徒の感想

- ・ガーナが世界一のカカオ豆生産国ではないということを知って、今までチョコレートといったらガーナだと思っていた私は、とても驚きました。ガーナで車がたくさん走っていた光景を見て、車の走らない国だと思っていた私は、とても驚きました。そして自分が、いかに外国を知らないかという事をひしひしと感じました。カカオ豆貿易ゲームでは、開発途上国と先進国の差を知り、先進国がどんどん開発途上国を助けていけばいいと思いました。

・「1枚のガーナチョコレートから」をやるまでは、カカオ豆のことを何も知らなかったけど、ビデオやカカオ豆貿易ゲームをして、ガーナについての色々な事が分かりました。

- ・貿易ゲームでカカオ豆を作るほうが、カカオ豆を買い取ってチョコレートとして売る方より不利なのと同じように、ガーナはカカオ豆を作ったたくさん輸出しても、国内ではチョコレートを作っても売れず、他の国より貿易において不利な立場にあると思いました。世界には開発途上国がまだまだあって、いつまでも変わる事ができないので、今の日本や世界は、世界の現状を変えるために何かをしなければならないと思いました。

## カカオ豆貿易ゲームの詳細とルール

### 1. ねらい

- ・貿易される原材料と加工されて付加価値のついた商品の価値（価格）に偏りがあることを知る。
- ・原材料を輸出する国の人々の思いを知る。
- ・需要と供給の関係を知る。
- ・先進国と開発途上国の間での、国際協力の必要性を考える。

### 2. ゲームの準備

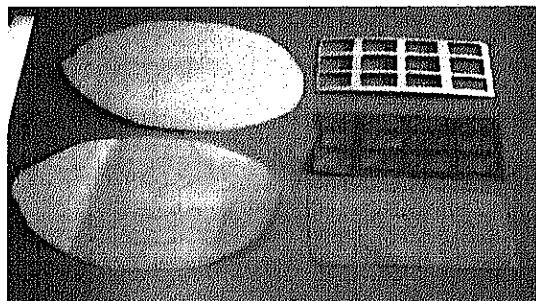
①A国（ガーナ）とB国（フランスやドイツなどの先進国）にグループを分ける。

②1グループは3～4人。

③ガーナと先進国の割合は、5分の1程度が先進国、5分の4程度がガーナ。商社は教師が務める。

#### ④必要な道具類

- ・ガーナ…カカオ豆（カカオの実）の形をした型紙、オレンジ色のクレパスか色鉛筆（カカオの熟した実をイメージしている。）、紙（カカオの実を描くもの）、はさみ（カカオの実を切り取る道具）
- ・B国…チョコレート（カカオの実から切り取る）の型紙、こげ茶のクレパスか色鉛筆（カカオの実の裏側にチョコレートの色を塗るためのもの）。チョコレートの型紙、クレパス、はさみは十分に用意する。
- ・カカオ豆やチョコレートの代金として支払われる紙幣。
- ・収支一覧を掲示するための模造紙とマジック。
- ・感想等を記入するワークシート。
- ・貿易の矛盾や今後の課題を生徒に実感させる資料。（カカオ豆の輸出量とチョコレートの輸出量など）



カカオ豆貿易ゲーム 型紙、カカオ、チョコ

### 3. ゲームのルール

- ・与えられた条件は違うが、お金を一番儲けたチームが勝ち。
- ・与えられた道具以外を使用してはならない。
- ・A国の持ち金は0。B国の持ち金は、100ドル（通貨単位はなんでもOK）。
- ・A国は、カカオ豆の型紙を利用してはさみで切り抜き、クレパスで色を塗ったら出荷できる。
- ・B国は、カカオ豆を商社から買い取り、裏にクレパスで色

- を塗り、チョコレートの型紙で切り取ったら出荷できる。
- ・カカオ豆は、商社が6個を10ドルで買い取る。（ガーナのカカオ農園では、60kg単位でカカオ豆を出荷しているから。）
- ・商社はB国に6個20ドルでカカオ豆を売る。
- ・チョコレートは、商社が1箱（カカオの実1つから1箱生産できる）を10ドルで買い取る。
- ・原材料であるカカオ豆の型紙、紙、クレパスは、他国に貸したり売ったりしてはいけない。
- ・商品（カカオ豆、チョコレート）を輸出する場合は、必ず商社を通すこと。
- ・生産した商品（カカオ豆、チョコレート）が粗悪だった場合は、商社は買い取りを拒否する。
- ・ゲーム中の生徒から質問は、一切受け付けない。
- ・各国間の交流は、ルールで制限されたもの以外は自由。（ガーナから先進国へ働きに行く人がいるかもしれないし、先進国からチョコレートの型を借りてガーナでチョコレートを生産するかもしれない。）
- ・制限時間がきたら、手持ち金（先進国は最初の持ち金を差し引いた額）を教師に報告する。



カカオ豆貿易ゲーム 利益向上の話し合い

### 4. 留意点

- ・教師は、生徒の発言やつぶやき、行動の様子を詳しく観察しておき、記録する。
- ・教師は、天候不順、生産過剰などの理由をつけ、カカオ豆の生産を中止させたり、カカオ豆の価格を暴落させたりする。このことによって、モノカルチャーの抱える問題点や、経済の不公平な仕組みを考えることができる。
- ・すべてのグループの収支一覧を掲示し、ゲームの感想を出し合う。（感想記入用のワークプリントを準備する。）
- ・ゲームのねらいや世界の貿易の現実に触れ、その矛盾を探る。
- ・今後考えていかなければならない課題を確認する。

## 展開

### 授業の流れ

### ◎評価のポイント

#### 4時間

・カカオ豆貿易ゲーム

学習課題：なぜガーナは、カカオ豆の輸出量が多いにもかかわらず、チョコレートの消費量とチョコレートの輸出量が少ないのか。

○需要と供給の関係が理解できたか。

- ・A国とB国に分かれてカカオ豆貿易ゲームを行う。
- ・ゲーム途中での利益を教師に報告する。
- ・利益を高めるための対策を考える。

#### 5時間

・カカオ豆貿易ゲーム

- ・学習課題の再確認をする。
- ・前時の反省、利益追求のための対策を確認する。
- ・カカオ豆貿易ゲーム開始。
- ・最終利益を指導者に報告
- ・最終利益を黒板に掲示し、順位を決定する。
- ・カカオ豆貿易ゲームで気付いたことや感想を記入する。

○農作物が天候に大きく左右されることを理解できたか。

#### 6時間

・ゲームのまとめ

- ・カカオ豆貿易ゲームで気付いたことや考えたことを、課題別に整理する。
- ・ワークシートに貿易の問題点や国際社会の抱えている課題、その解決策を考え記入する
- ・ワークシートに記入したことを発表する。
- ・自分が立てた予想と比較する。
- ・カカオ豆貿易ゲームの感想を記入する。

学習課題のまとめ：ガーナは、カカオ豆の生産が盛んで、海外に多く輸出しているが、チョコレートを大量に生産しているのは、ヨーロッパやアメリカである。ガーナは、開発途上国で工業があまり盛んではないため、チョコレートを生産する施設や技術も少ない。また、国の気候が熱帯に属するため、チョコレートの需要が少ない。さらに、チョコレートは米や小麦などと違い、嗜好品のため、世界規模での高い需要は期待できない。そのためカカオ豆の輸出量が多いにもかかわらず、チョコレートの輸出量（生産量）が少ない。

○学習課題のまとめを自分の言葉で書くことができたか。

### 7時間 ガーナに賭けた青春

ガーナのアチュワ村に派遣された青年海外協力隊員の武辺寛朗さんが、努力の末にファンティパイナップル（甘みや香りが高いパイナップル）生産を軌道にのせる。さらに、販売経路の確保やパイナップル協会をつくるなど、自分が村を離れてからもパイナップル栽培が継続されるような準備をしていった。そのような中で、武辺さんを「村のナナ・シピ（長老の一人）にしたい」との声が上がり、武辺さんはそれを受け

る。外国人のしかも残り1年で村を去る人間でありながら、長老の一人になって欲しかったのは、村の人たちが武辺さんに名誉を与えなかったからであった。

その後、不慮の事故で武辺さんは他界するが、武辺さんの業績を称えて記念碑が住民の手作りで建てられる。

「村人たちが、ナナ・シピに就いてもらいたいと思うほど、なぜ武辺さんはガーナのためにボランティアとして働いたのか」という発問をきっかけに、自己を振り返り、日本のことだけでなく世界的な視

野に立ち、国際ボランティアに積極的に関わっていかうとする気持ちを育てていく。

※本時の内容は、中学校学習指導要領第3章道徳の項目4-(10)「世界の中の日本人としての自覚を

もち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。」に対応するものとして位置づけた。

### 授業の流れ

### ◎評価のポイント

- ・ガーナのビデオやプリントを見る。
- ・資料5を黙読しながら範読を聞き、あらすじの確認をする。

発問1「村人たちが、ナナ・シビ（長老の中の一人）に就いてもらおうと思うくらい、武辺さんはなぜ、ここまでガーナの人たちのためにボランティアとして働いたのでしょうか。」

- ・発問に対する答えをワークシートへ記入する。

—〈発問に対する答え〉—

- ・ガーナが好きだった。
- ・ボランティアの仕事に生きがいを感じていた。

- ・記入したことを発表する。

発問2「武辺さんのような国際ボランティアをしたことがありますか」

- ・発問の答えをプリントに書く。
- ・プリントに記入したことを発表する。

発問3「説話を聞いて、他国のために働くことは、どのような価値や意味があると思いましたが。」

- ・発問に対する答えをワークシートへ記入する。

—〈発問に対する答え〉—

- ・自国だけでなく、外国も豊かになって、初めて環境問題などが解決する。

発問「今後、どのような国際ボランティアに関わっていかうと思いますか。」

- ・発問に対する答えをワークシートへ記入する。

—〈発問に対する答え〉—

- ・郵便局のボランティア貯金をする。
- ・企業等で実施している募金活動に募金する。

- ・記入したことを発表する。

○国際協力の必要性が理解できたか。

○今後の国際ボランティア活動に対して、前向きに考えられたか。

注意：本時の道徳は、対象とする生徒が違うため、1時間でも授業が完結するように構成した。

**8時限**

**ガーナの小学校へ行こう！**

ノエムコミュニティとアクロポンの小学校での授業風景や学校施設を撮影した映像を見る。ガーナが日本と同じく「子どもの権利条約」を批准していることを知らせ、条約の内容の一部を確認する。そして、条約の内容が守られていないことから、人間としてガーナに対して何をしなければならないのかを考える。

**■生徒の感想**

・ガーナにはお金があまりないと思うから、日本などの先進国が積極的にガーナに資金援助や人材を派遣したりするべきだと思った。

**9時限**

**ガーナでの国際ボランティア活動**

ガーナ家族計画協会や、STMに派遣されているJICA専門家や青年海外協力隊の活動を通して、国際ボランティアの必要性について考える。さらに、国内にいても簡単に出来る国際ボランティアをいくつか紹介し、生徒自身でもできる国際協力を見つけていく。

**■授業全体を通しての生徒の感想**

・先進国と開発途上国の貧富の差を思い知った。そして、その差を埋めるために色々な人や色々な国が協力している事を知り、すごく感銘を受けた。同じ地球上に住

む人間として、各国の貧富の差を埋めていければいいと思った。そして、すべての人が幸せに暮らしていける世の中にしていきたいと思う。そのためにも募金をしたり、青年海外協力隊の一員になりたいと思った。ただ、一方的に助けるのではなく、その国がきちんと自立していけるように、人材を育てる事も大切だということも分かった。富を築くのではなく、かたくなに現地の人のために働いているボランティアの生き方に、尊敬の意を表さずにはいられなかった。そんな生き方は、きっと私にはできないと思うけれども、自分で振り返って、いい人生だったと思える人生を歩みたい。

・開発途上国というのは、日本のような先進国とは生活の様子が違う事は知っていたのですが、ガーナの教育についてなどの授業を受けて、こんなにも違うものかと驚きました。また、青年海外協力隊についても知る事ができ、とても興味を持ちました。日本はガーナの他にも開発途上国に色々と協力しているのだなあと思いました。

ガーナの授業を受けてから自分たちの生活を振り返ってみると、1時間の授業が終わるたびに「もう勉強いやだー」と言ってみたり、平気で給食を残していた事を、重く受け止めるようになりました。ガーナについて授業でたくさんの事を教わったけれど、私たちが知らない事はまだまだあると思います。だから、もっと開発途上国の生活の様子などを知り、少しでも自分が力になれば良いと思います。また、この開発途上国の現状を色々な人に知ってもらえば、より多くの人の協力が得られると思います。

私は、インターネットで国際ボランティア団体、古切手の収集、古着の寄付などについて調べてみましたが、次は実行してみようと思いました。

**成果と課題**

成果としては、地理的分野の基礎である雨温図の読み取りや時差の計算等が、この授業を通して身についたこと。また、「1枚のガーナチョコレートから」の学習を通して、「ガーナはチョコレート」という生徒のイメージを、良い意味で崩すことができた。「カカオ豆貿易ゲーム」からは、カカオを安く輸出するガーナとカカオ豆を加工して、付加価値をつけたチョコレートとして高く売る先進国。原材料を輸出す

る国は、外貨を稼げない。技術を持つ国は、ますます経済的に豊かになる。このような、南北問題の抱えている問題点が明確になったと思う。また、農産物は工業製品と違って国際価格の変動が大きく、外貨収入源としては不安定でもあることを、ゲームを通して生徒たちは学習できたと思う。

昨年度のJICA国際協力出前講座を利用した講演会と、「ガーナに賭けた青春」「ガーナでの国際ボラン